

原爆関係の慰霊碑等の概要(安佐南区内)

平成27年2月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
梅林01 城山北01	佐東町八木地区戦没者慰霊碑 1977年5月 安佐南区八木三丁目26番16号 (光廣神社境内)	日清及日露戦争5名、支那事变21名、大東亜戦争53名、軍属・義勇隊・学徒動員27名、原爆犠牲者40名(背面) 昭和8(1933)年御神殿造営の際発掘された由緒ある石を碑として御霊を合祀して永久の冥福を祈る。 昭和52(1977)年5月吉日 八木地区有志建立(台座)	八木地区 有志	八木地区の日清戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(146人。うち原爆犠牲者40人)を慰霊するため、建立された。背面には、犠牲者の名前が刻まれている。
梅林02 城山北02	緑井慰霊碑 1984年1月29日 安佐南区緑井町権現山中腹(毘沙門天堂 多宝塔1階)	慰霊 荒木武書	毘沙門天堂総代原爆犠牲者慰霊多宝塔建設委員会	緑井、八木、川内の佐東地区旧3村ゆかりの原爆犠牲者の慰霊多宝塔を建立するため、約30年間の歳月と多くの方々からの募金により塔が完成した。碑は塔の1階にあり、内部には地元緑井地区の犠牲者27人と各世帯の物故者代表106人の過去帳が納められている。背後の壁面には、「念ずれば花ひらく」と刻まれている。毎年4月、慰霊行事が行われている。
川内01 城南01	川内村戦没者戦災死者供養塔 1953年12月6日 安佐南区川内五丁目40番1号(川内小学校内、正門入って左)	川内村戦没者戦災死者供養塔	川内村未亡人会(白梅会)	安佐郡川内村温井(現在の安佐南区川内地区)から中島新町(現在の中島町。爆心地から650メートル)に出動した川内村国民義勇隊の先発隊は、現場で建物疎開作業中に被爆して全滅した。また、後続隊は現場に向かう途中で被爆し、無傷で帰って来た人もいたが、後に原爆症に苦しむ人も少なかった。碑は、こうした原爆犠牲者と第2次世界大戦の戦没者を慰霊するため、建立された。なお、川内村国民義勇隊の犠牲者を慰霊する碑として、「義勇隊の碑」(中区)と「安佐郡川内村原爆精霊供養塔」(西区)がある。毎年8月10日ごろ、校庭で川内学区社会福祉協議会主催による慰霊祭が行われている。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-877-0044)で)
緑井01 城南02	緑井地区戦没者慰霊碑 1959年5月 安佐南区緑井四丁目34番17号 (専蔵坊山門前)	緑井地区戦没者慰霊碑	緑井地区 民	緑井地区の戊辰戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(165人。うち原爆犠牲者55人)を慰霊するため、建立された。横に名録碑があり、犠牲者の名前が刻まれている。
安東01 安佐01	安忠魂碑 1961年5月20日 安佐南区相田二丁目4番(相田集会所前)	忠魂碑	安忠魂碑 修築委員会	旧安村の西南戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(373人。うち原爆犠牲者は国民義勇隊78人、動員学徒53人の131人)を慰霊するため、建立された。左右に名録碑があり、犠牲者の名前が刻まれている。毎年秋に、遺族会主催の慰霊行事が地元の寺院(輪番制)で行われている。
中筋01 東原01	東野戦没者慰霊碑 1960年10月2日 安佐南区東野二丁目22番20号 (善教寺境内前)	戦没者慰霊之碑 昭和35年9月 広島県知事 大原博夫敬書	東野地区 戦没者慰 霊碑建設 委員会	東野地区の西南戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(77人。うち原爆犠牲者は一般原爆死24人、動員学徒9人、動員学徒・女子挺身隊7人、軍人1人の41人)を慰霊するため、建立された。台座正面に犠牲者の名前が刻まれている。
原01 祇園東01	原忠魂碑 1967年8月(改修) 安佐南区西原六丁目13番(冬木神社前)	忠魂碑	原地区民 有志・遺族 会	旧原村の日露戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(133人。うち原爆犠牲者は動員学徒37人、挺身隊7人、国民義勇隊6人、軍人6人、軍属5人、徴用工1人の62人)を慰霊するため、建立された。碑は当初1932年11月に建立されたが、占領政策を受けて1946年に政府が打ち出した方針(学校及び公共用地等にある忠魂碑等の撤去)を踏まえ、「忠魂碑」の文字がセメントで塗りつぶされ放置されていた。日本の独立回復後、文字は掘り出され、1967年の改修の際、原爆死没者なども含めて慰霊した。台座正面に犠牲者の名前が刻まれている。
祇園01 祇園01	祇園慰霊碑 1970年7月 安佐南区祇園二丁目21番12号 (安神社境内)	国のため 行きて帰らぬ みたまを しのびて (台座正面)	祇園地区 慰霊碑建 設実行委 員会、祇園 地区社会 福祉協議 会	旧祇園町の日清戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(146人。うち原爆犠牲者は動員学徒38人、義勇隊8人、徴用工7人、軍人6人、勤労報国隊2人の61人)を慰霊するため、建立された。碑は当初1932年に祇園小学校内に建立されたが、占領政策を受けて1946年に政府が打ち出した方針(学校及び公共用地等にある忠魂碑等の撤去)に伴い、地元民が解体して地中に埋めた。日本の独立回復後、新しく戦没者慰霊碑を建立したいという声が高まり、1970年、地元民から寄せられた募金により現在の碑が建立された。毎年7月末か8月上旬、遺族会による慰霊祭が行われている。
祇園02 祇園02	大下学園祇園高等学校職員生徒慰霊碑 1954年9月22日 安佐南区祇園二丁目33番16号 (AICJ中学・高等学校内、正門奥の中庭)	しづかなる 山のふもとの 学び舎に 君をしのびて われはげむべし(横の歌碑)	大下学園 祇園高等 学校	AICJ中学・高等学校の前身である祇園高等女学校の生徒は細工町(現在の大手町一丁目。爆心地から50メートル)にあった広島郵便局に動員中、被爆し、全滅した。碑の横には、犠牲になった生徒83人、教員1人の名前を刻んだ名録碑がある。 ※学校休校日は見学不可。見学時間は8時30分～17時。正門入って左側の事務室で見学したい旨を連絡

原爆関係の慰霊碑等の概要(安佐南区内)

平成27年2月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
山本01 祇園03	山本忠魂碑 1967年8月(修復) 安佐南区山本一丁目9番(「山本小学校前」バス停前)	忠魂碑 陸軍大将鈴木莊六書	山本地区 民有志・遺 族会	旧山本村の太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(72人。うち原爆犠牲者は動員学徒24人、国民義勇隊2人、徴用工2人、勤労報国隊2人、軍人1人、軍属1人の32人)を慰霊するため、建立された。碑は当初1935年に建立されたが、占領政策を受けて1946年に政府が出した方針(学校及び公共用地等にある忠魂碑等の撤去)を踏まえ、地区民は「忠魂碑」の文字をセメントで埋め、「平和塔」として保存した。日本の独立回復後、セメントを除去し、忠魂碑に復元した。1967年、碑の修復の際、原爆犠牲者なども含めて慰霊した。毎年8月15日、碑の前で遺族などによる慰霊祭が行われている。
長束01 長束01	長束忠魂碑 1954年4月29日(修復) 安佐南区長束二丁目1番(ネットコタ広島祇園店西、蓮光寺専用駐車場内)	忠魂碑 陸軍中将 大谷喜久蔵書	長束地区 民有志・遺 族会	旧長束村の西南戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(121人。うち原爆犠牲者は動員学徒26人、義勇隊4人、徴用工4人、軍人4人、軍属3人、勤労報国隊2人の43人)を慰霊するため、建立された。碑は当初1913年に建立されたが、占領政策を受けて1946年に政府が出した方針(学校及び公共用地等にある忠魂碑等の撤去)を踏まえ、地区民は「忠魂碑」の文字をセメントで埋めて、保存した。1954年、碑の修復の際、原爆犠牲者なども含めて慰霊した。2010年8月、現在地へ移設された。
伴01 伴01	伴忠魂碑 1955年3月(修復) 安佐南区伴中央四丁目7番18号 (専念寺前)	忠魂碑 陸軍中将正四位勲一等功二級男爵 真鍋斌書	伴村、伴村 郷友会、伴 村遺族会	旧伴村の西南戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(251人)を慰霊するため、建立された。犠牲者の名前が碑の四方に刻まれている。
伴02 伴02	広陵中学校職員生徒慰霊碑 1965年8月 安佐南区伴東三丁目14番1号(広陵高等学校内、正門入って右奥)	慰霊	広陵学園・ 同PTA	当時、広陵中学校は宇品町(爆心地から3キロメートル)にあった。1、2年生は、雑魚場町(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)から鶴見橋(爆心地から1.6キロメートル)周辺に建物疎開作業に出動し、生徒22人、職員2人が犠牲となった。また、その他軍需工場などに出動中の生徒14人が犠牲となった。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-848-1321)で)
戸山01 戸山01	戸山戦没者慰霊碑 1958年8月 安佐南区沼田町吉山11番地3 (戸山大橋の東河畔)	功勲廣大 浄土真宗本願寺派門主 大谷光照書	発起者 戸山郷友 会 建立 戸山地区 民	日清戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(計180人。うち原爆犠牲者33人。)を慰霊するため、地区民の浄財を得て建立された。後面に犠牲者の名前が刻まれている。 原爆犠牲者は学徒動員14人、軍人12人、義勇隊4人、それに挺身隊、公務徴用、軍属各1人。 隣接地には、1912年に戸山村が建立した日清、日露戦争等での戦死者を慰霊する戦没記念碑もある。 この区域では毎年、地区民による周辺清掃や灯籠献納が行われている。

(注)原則、漢数字は算用数字で表記しています。